

環境部会

親子であつまれ

炭焼き体験塾

生6-環 森佳代子

(財)長寿社会開発センターの後援を得て、「炭焼き体験塾」をグループわ本部の主催、環境部会ケナフの会の協力で、平成17年3月12日(土)10~12時、シルバ-カレッジ中庭で行った。一方、当日は午後にはしあわせの村研修館ホールで「昔あそび塾」も行われた。

参加人員

当日は風が強く寒い日であったが、子供29名、大人

は不可能である。炭焼き体験塾は昨年度に引き続いて2回目のイベントで、昨年の経験を活かして、限られた時間内で、炭焼きの臨場感をできるだけ体験して貰えるように

(1)前日に約24時間かけて焼いた竹炭を、当日朝に炭焼き炉から出し、炭のでき具合を見せる

(2)あらかじめ準備した竹素材を炭焼き炉に子供達が装入する

(3)炉に子供が火入れする

(4)子供達が炭焼きの状況を炉覗き窓から観察する

(5)前日焼いた竹炭を子供達が用意したビニ-ル袋に入れ、炭焼き体験の記念とし

い、まず、炭焼き炉の説明を行った後、次の順序で炭焼き体験をして貰った。

(1)前日焼いた竹炭を炉から取り出し、炭のでき具合状況の見学と説明

竹70kg炭焼きして約22kgの竹炭ができた状況は臨場感のある光景で、我々も何度経験しても感動を覚える瞬間であるが、参加者からもウォ-と言うような声があがり、臨場感と炭はこのように焼けるのを見て、体験して貰った。

(2)炭焼き炉への竹の装入作業

炭焼きをするためには、まず炉に備えつけられた鉄籠にあらかじめ裁断した6つ割れの長さ約50cmの短冊状の竹を隙間のないように詰めることが必要である。この作業を子供達全員で交代して体験して貰った。幼稚園から小学校6年生までの子供達であったが、小さい子供は親が手伝い嬉々として作業してくれた。親子での共同作業は体験塾のよいところであり、微笑ましい光景であった。竹を詰めた鉄籠は炉に備え付けた揚重機を用い炉に装入し、炉の蓋をして準備を終了した。

(3)炭焼き炉の点火および炭焼き体験

炭焼きは点火後、薪を焚きながら、送りこむ空気量を調整して、約4時間かけて350~400に加熱し、更に1時間保持し、その後は炉を密閉して翌朝まで徐冷して炭を作る。

当日は、子供に点火して貰い、また薪の炉への入れ作業を体験させると共に、覗き窓からの炭焼き状況の観察を子供達に体験して貰った。子供達は炉内の火の様子や煙突からもうもうと

上がる煙や炉内温度計の上がり状況を興味深く見、ある程度の炭焼き体験を感じてくれたように思った。

(4)前日焼いた竹炭の配布

竹炭の消臭、水浄化、土の改良等竹炭の上手な使い方方を説明した後、用意したビニ-ル袋に子供達がそれぞれ炭を入れ、炭焼き体験の記念として持ち帰って貰った。

ふりかえってみよう

最後に美工室で「ふりかえりシートに書きましよう」および「ふりかえってみよう」を行い、参加者から「炭焼きの体験ができて大変よかった」「大変お世話になりました」等のお礼が多数述べられ、成功裡に終えることができた。

所感

炭焼き体験教室は、炭焼きする竹の準備、炭焼き炉の搬入設置、前日の炭焼き等準備が大変であったが、参加の子供さん、親から大変感謝され、我々の苦労も吹き飛んだ思いであった。ご協力頂いたグループわ本部スタッフ、ケナフの会の皆様から心から感謝致します。



27名計56名(20家族)の参加があった。主催側はわ本部スタッフ、環境部会ケナフの会・在校生ケナフの会約20名が出席し、種々の準備、指導をした。

炭焼き準備

炭焼きは当日使用した「短時間で炭焼きができるように開発された炭焼き炉」を用いても炉への竹の装入 火入れ 炭焼き 炉からの炭取り出し等一連の作業を終るには、24時間かかるので、数時間ですべての作業を体験して貰うこと

て持ち帰れる等の諸準備を事前に行った。

当日使用した炭焼きの竹は阪神淡路大震災10周年「鎮魂の灯」に用いられた竹を使い、子供達にそのことを説明した。これらの準備はケナフの会員で行い、延べ人員約60名、延べ時間約250時間をかけて実施した。

実施状況

参加者は、皆、炭焼きは始めての方で、シルバ-カレッジ中庭に設置した炭焼き炉の周囲に集まって貰

